

平成29年度第1回津島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年8月24日（木）
午後3時00分から午後3時56分まで
- 2 場 所 市役所3階 市長公室
- 3 出席者 （構成員）市長、教育長、教育委員会委員
（事務局）市長公室長、教育委員会事務局長、企画政策課長、
学校教育課長、指導主事、社会教育課長、
ほか担当職員2名
- 4 議 題 （1）国際交流の取組みについて
（2）防災教育その他の項目について
- 5 内 容
- 開会
- あいさつ
- 議題
- （1）国際交流の取組みについて
- （事務局） ・文部科学白書2015において、文部科学省では、小・中・高等学校を通じた外国語教育の強化や国際理解教育の推進に取り組んでいる。
- ・愛知県教員研修の手引（平成29年版）において、国際理解教育として異文化を理解し、他者と共生できる資質や能力、自己の確立、コミュニケーション能力といった国際理解教育を推進するための観点が示されている。また、国際理解教育の目標、重点、実践についても示されている。それぞれの学校の教育目標や重点目標、各教科・領域のねらいや内容など、教育活動全体を見通して、児童生徒の発達段階に応じた教育課程を編成することが望まし

い。その中で、全体計画の中に位置付ける内容を、それぞれの学校の必要に応じて実施することが大切である。

- ・津島市の教育大綱において、国際交流に関しては未来へ飛躍する人材の育成に向けて、グローバル化が進む中で国際交流を深めるための事業を推進し、異文化に触れる体験を通して国際感覚を身に着けることを定めている。
- ・今年度の取組み状況について、東小学校ではアメリカとの交流を予定。在名古屋米国領事館を通じて、「アメリカのことをもっと知ろう 日本のことを伝えよう」(仮)をテーマに、11月から12月頃に交流活動を計画している。
- ・神守小学校ではペルーとの交流を予定。在名古屋ペルー共和国総領事館を通じて、「ペルーのことを知り 日本との絆を深めよう」(仮)をテーマに、10月から12月頃に交流活動を計画している。
- ・南小学校では韓国との交流を実施。駐名古屋大韓民国領事館を通じて、韓日交流事業に取り組んでおり、韓国の生活や文化の理解を進めている。11月には韓日交流活動を予定。
- ・市内小学校児童を対象に日本と中国の交流イベントを開催した。7月22日、中国より長安第一小学校の児童29名と引率者・保護者等が来訪。市内小学生児童29人(保護者も)参加し、長安第一小学校の代表による、演舞などの披露、水墨画交流などを行った。また、市長への表敬訪問の際には、お抹茶や琴の演奏など日本の文化にふれてもらいながら、市長へのインタビューなどで交流を深めた。

(市長) ・県内の海外領事館は6つある。3年前から毎年、藤まつり、天王祭、秋まつりに参加して頂き、また様々な講演会や講座、交流会等を実施した。10月9日から津島市観光交流センターにて交流事業を行う予定。領事館を通じていろんな海外の情報を肌で感じて頂きたい。それができるようなしくみを3年間かけて築いてきた。津島の子ども達が少しでも関わってもらいたいと思う。

(奥村委員) ・県内の6つの領事館全てと交流を持つということが、子ども達にとって英語園以外の言葉も聴け、今のグローバルな時代にふさわしいと思う。小さい頃から異国の方と交流し、また自分の街の魅力を発信できるのはとてもいい経験になる。

(川村委員) ・韓国は日本に近く、高校で韓国語を習ったりして身近になってき

ている。6つの領事館との交流で韓国以外にも津島と関わっていただければいいと思う。

- (猪飼委員)
- ・体験して分かることがたくさんある。例えば、宗教関係ではイスラム教徒の人と喫茶店に行ったとき、ハムの入ったサンドイッチにおいてハムだけを除けばいいのではないかと思ったが、全く食べなかった。また、韓国の青年会議所と授業を行ったときは、韓国側の計画の立て方と日本側の計画の進め方に違いがあった。国の認識の違いは体験しないと分からないと感じた。
 - ・まずは体験することが大事だと思う。いろんな場を設けて頂ければと思う。
- (小出委員)
- ・今の事業では外国人の生の声が聴け、子ども達が外国人に接して英会話ができる。また、津島市にはブラジル人等の外国人のご子息がいる人が多い。そのような人に学校教育を理解して頂ければいろんなことに協力してもらえないのではないか。
 - ・注意しないといけないこともある。例えば、韓国の慰安婦像の件、中国の南シナ海領土の問題について、どのように受け答えをしていくのか、方向性を決めないといけないと思う。個々の回答をしてしまうと交流の場でも問題になる可能性がある。
- (教育長)
- ・国際教育について、学校教育として扱うのならば、年間の教育課程に組み入れないといけないことや、これを取り入れることで他の課程を削らないといけないことなどの問題がある。この国際教育を学校教育として実施していったらと思う。
- (市長)
- ・中国、韓国の総領事は、国としては難しい問題があるが、地域との交流を通じて関係を築いて理解し合えることがあると思うとおっしゃっていた。少しでも関わりを持っていける市でありたいと思う。

(2) 防災教育その他の項目について

- (事務局)
- ・今年度、市長からの提案で、市内小中学校を訪問し、市長マニフェストに掲げている項目のうち、防災教育における家庭防災の日の啓発、総合的な子どもの基礎体力向上事業（SKIP）や、学校給食推進事業における学校給食献立コンクールなど、PRや取

組状況について、校長先生方と意見交換をした。

・①家庭防災の日の周知について

津島市は、毎月第3日曜日を「家庭防災の日」としている。家庭防災の日の周知は、児童・生徒の命を守るために必要な取組であると考えている。

・②S K I Pの取組について

「いつまでも健康で暮らす都市、津島」の実現に向けて、子どもの頃の基礎体力を充実し、生涯にわたって健康な身体を維持していく。そのために、学校教育における体力づくり、地域における運動や外遊びの機会の確保、家庭における生活習慣の改善から、基礎体力の向上に取り組み、健康に生活をする体力のベースを築き上げていく取組である。

・③学校給食献立コンクールについて

第1回学校給食献立コンクールは951の作品応募があり、昨年2回目は333で減少した。今回の第3回の応募件数は1,104件で、多くの児童・生徒、そしてご家族が関わって頂いた。今後の審査において、献立に採用するメニューを決めていく予定。

・④学校からの要望事項

学校訪問した際に、トイレの洋式化、雨漏りの修正、エアコンの設置等の学校施設の整備や回収の要望の話があった。教育大綱において、子どもたちが安全で安心して学べる教育環境を確保するため、校舎などの改修・整備などを計画的に推進していくことなどを定めている。修繕の考え方については、津島市公共施設等総合管理計画において基本方針に定めており、学校教育系施設においては、1960～1970年代に建築された施設を中心に老朽化が進み、一部で雨漏りなどの不具合が発生している等の課題がある。課題に対しては、予防保全型の維持管理を行っていくことを中心に、大規模修繕や更新のタイミングに合わせ、複合化やダウンサイジングなどによる更新を行っていくことを考えている。

(奥村委員)

- ・防災の日は市民にしっかり浸透させてほしい。
- ・津島市の子どもたちの体力は愛知県の平均より下回っているので、S K I Pで体力維持・向上につながるよう進めてほしい。

(川村委員)

- ・今回の第3回給食献立コンクールは応募数が多くなり驚いた。審査で選ばれて給食に献立メニューが給食に出されたら、応募者は

すごく嬉しいし、ご家庭も献立タイトルを見るだけでも興味を持って頂ける。

- (猪飼委員)
- ・学校訪問に行くと、いろんなものを見たり先生方のお話を聴く。先生方も現状を理解頂いている。要望の中でも実際に市長が見た中で改善して頂けることがあるといいなと思う。
- (小出委員)
- ・津島市の組織力は優れている。イベントにおいても、様々な団体からの声かけで参加されていることが多い。組織がしっかりしているということは、その窓口となる市役所の人達が協力しながらやろうという姿勢を見せており、それがその組織の人達のやる気につながっているからである。
 - ・学校施設の雨漏り修繕について、「検討します」ではなく、「何年度にはやります」という具体的に示されれば、それまで待つかという気持ちになり、やる気にもつながる。市は地域の人たちと連携が必要になることが多い。地域の人達は一生懸命やっていると思う。津島市を変えるのは組織力だと思っている。
- (教育長)
- ・家庭防災の日は、学校だけの防災訓練だけではなく、地域の皆さんと一緒にすることが大切。地域と学校が一緒になって、家庭でも危機意識を持って頂かないといけない。家庭防災の日のPRをしているが、直接市民の皆さんに家庭防災の日が浸透するような啓発できるといいなと思う。
 - ・S K I Pについては、先生が体力テストの結果を見ながら課題をつかみ取り組んでいるので学校に任せて頂ければと思う。備品等に予算をつけて頂きたいと思う。
 - ・献立コンクールについては食育にも健康にもつながる。コンクールを通しておいしい楽しい給食を感じて頂きたい。
 - ・学校からの要望書であるが、施設について、公共施設総合管理計画に沿って市全体の方向としての修繕・改廃が必要であるが、何よりも学校関係を最優先して頂けるよう要望する。
- (市長)
- ・家庭防災の日については子供を守ることにもなるので、学校から発信して頂いて、家庭のこととして取り組んで頂きたいと思う。
 - ・S K I Pについては各学校で考えて頂いて健康で基礎的な体力づくりを工夫してやって頂いていると感じた。

- ・給食献立コンクールについては、夏休みを利用して期間を延長した。とある家庭の話ではおばあちゃんに子供がこの話をしていたそうである。家庭3世代で食について話し合えてよかったと思う。
- ・学校からの要望を直にお話を聞いた。施設については、公共施設を31%廃止・縮減しなければ、人口減少の時代に対応できず維持管理できない。高度経済成長期に建てた建物をいかに有効活用していくか。小中学校の統廃合はしない予定。学校の耐震化はしてあるので、防災の拠点ともなり、地域に関わりを持って頂く。例えば、空き教室ができた場合にはそこを提供して頂くことでコストを削減する。また、国の補助金制度が利用できるような提案ができれば、市の予算は非常に少なく済む。これから知恵を出し合って、地域の拠点になっていくための改修工事をしていくことにより、計画的に長期修繕を行っていくのが理想的だと考えている。厳しい状況を考えなければならない。各学校からは熱い思いを聞かせて頂いたので、何か策を模索しながら財政的なことも一つずつクリアしながらやっていきたいと考えている。

○その他

- (事務局)
- ・次回の津島市総合会議の開催については、決定次第連絡する。

○閉会